

2012

岐大通

2012 J.League Division2

第23節 ロアッソ熊本 戦

7/8 (日) 19:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C岐阜大好き通信 (岐大通)

7/8号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest: ロアッソ熊本 2011 J2 13勝 12分 1敗 勝ち点 51 第1位

九州の社会人サッカーの雄として君臨していたNTT九州サッカー部（後にアルエット熊本に組織変更）は、JFL昇格2年で九州リーグに降格。そのアルエットを引き継ぐカタチで2005年に『ロッソ熊本』が発足。同年の九州リーグを制し、地域決勝は3位で終えた（優勝はFC琉球、2位はジェフ千葉アマチュア（後のジェフ・リザーブズ））が、同年のJFLで愛媛FCがJFLで優勝しJ2加盟を決めたため昇格枠が3になりJFLへ。翌年のJFLは5位で終えJ2加盟ならず（これにより、この年の地域決勝で2位となったFC岐阜はJFLへの自動昇格を果たせず、ホンダロックとの入替戦を戦うことになった）。JFL2年目の2007年は2位となり、3位のFC岐阜とともにJ2加盟。最高位は2010年のJ2・7位。（吉田鑄造）

前節で2012リーグも折り返しとなり、後半戦の初戦では、1ヶ月前には0-3で敗れた強豪・甲府を相手にアウェイで引き分け、勝ち点1を積み上げたFC岐阜。これで6月からの戦績は2勝1敗3分と、苦労しながらも徐々に勝ち点を積み上げ、最下位に低迷していた順位も、今は単独19位にまで上げてきた。後半戦は、この好調を維持して更なる順位アップを目指したい。チーム好調の最大の要因は、やはり守備が機能してきていることだろう。行徳監督就任1年目ということで、チーム作りに時間がかかったが、前節で3試合連続無失点を記録し、これまでで今季は7試合で無失点。昨季の無失点はわずか1試合だったことを考えると、立て直しは成功しつつあると見て良いだろう。一方で得点力不足は解消されていない。これまで複数得点を挙げた試合はわずか1試合、無得点試合も2節を経過して1試合と、かなり多くなっている。攻撃力の増加が、後半戦でのチーム躍進の大きなポイントだ。さて、本日の対戦相手は“J昇格同期”のロアッソ熊本。現在の順位は1位だが、こちらも6月からの成績は3勝1敗2分・5試合負け無しと好調で、前節では千葉も破っている。熊本と岐阜の通算対戦成績は（JFL時代を含めて）4勝4敗5分とほぼ互角だが、2009年以降2年間は岐阜が勝っていない。今季もアウェイ水前寺の地で0-3と敗北しており、今節ホーム長良川では是非ともリベンジしたいところだ。

要注意選手は、やはり今季9得点と、熊本の総得点19点のほぼ半数を挙げているFW#14武富孝介だろう。前節の千葉戦でも彼の貴重な決勝ゴールで勝利を挙げており、3試合連続ゴールと好調な熊本の得点源だ。まずは、彼を押さえ込むことが勝利への近道だろう。高木体制3年目でチームが習熟してきている熊本だが、行徳監督はどのような選手起用で勝利を目指すのか。スタメンやフォーメーションを対戦相手に応じて変えてくる行徳采配に期待したい。（ささたく）

◇ 『岐大通』 バックナンバーのお知らせ

すべてのバックナンバーを「吉田鑄造総合研究所」でpdfファイルを公開しています。配布時はA3サイズだったものも、こちらではご自宅などで印刷しやすいよう、すべてA4サイズに修正いたしました。下記アドレスをご参照ください。

<http://www.cyic.co.uk/fcgifu/gidaidohri.html>

次回 HomeGame

第2節 カターレ富山戦

7/15 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

投稿募集! gidaidohr@hotmail.co.jp

2012J2 順位表 第22節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 岐阜から見て

1 東京V	43p	+20	42	22	A●
2 湘南	41p	+12	37	25	A●
3 大分	41p	+12	31	19	H●
4 山形	41p	+10	32	22	A●
5 千葉	39p	+21	35	14	A○
6 甲府	38p	+12	31	19	H● A△
7 京都	37p	+7	30	23	H●
8 岡山	35p	+2	20	18	A○
9 横浜FC	34p	+8	36	28	H●
10 栃木	32p	+3	28	25	A△
11 愛媛	31p	+7	30	23	H△
12 水戸	31p	0	22	22	H●
13 福岡	30p	+3	28	25	A△
14 北九州	28p	-5	24	29	H○
15 徳島	26p	-4	19	23	A●
16 熊本	26p	-8	19	27	A●
17 松本	25p	-9	14	23	H●
18 草津	24p	-8	15	23	H△
19 岐阜	18p	-18	11	29	==
20 鳥取	17p	-29	18	47	H△
21 富山	15p	-15	17	32	A●
22 町田	13p	-21	15	36	H○



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど・・・

心の花が咲く・・・

何も無い店だけど・・・

心癒される・・・

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休：日曜日（今日はお休みです）

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23
tel:058-273-8998

【第2節】岐阜 1-0町田

●順位の近い町田相手に負けられない大事な一戦であったが1-0で勝利！北九州戦以来のホーム戦勝利はやはり格別なものであった。

試合は前半立ち上がりは押し気味だった。染矢のミドルはキーパーのパンチングに阻まれたりボレーシュートがサイドネットを直撃したり。ただ、その後は町田のゆったりしたペースに付き合わされて、全体的に「緩い」サッカーだったかと。ハーフタイムにサポ仲間と話したが、同じような感想を持っていたようだ。

これで後半ペースアップされたら、嫌だなと思いつつ後半突入。そして得点機が訪れた。明弘のグラウンダーの早いクロスは相手キーパーの出した手も及ばずゴール前に詰めた洗一の前へ。洗一は押し込むだけのゴールが決まった。自分がオッと思ったのはその直後。まったくペースの上がらない町田に対して相手陣内高い位置からのプレスがものすごく効いていた事。ボールの出しどころがなくなった町田は最終ラインでボールを回すか苦し紛れに前線に放り込むことしかできなくなっていた。これからのゲームもこのような守備ができていけば、上位チーム相手にもそこそこの戦いがやっていけるのではないだろうか。

さてこのゲーム、ゴールを決めたのは洗一だが、光ったのは関田の守備。町田の攻撃が平本に放り込んでくるだけという比較的対処しやすいものではあったかもしれないが、危険な場面もしっかりカラダを寄せて、J1経験のある平本にほとんど仕事をさせていなかった。開幕当初はSBの起用ということで不慣れな点を露呈してしまっていたが、CBに固定されてからは1試合ごとに成長の跡が窺える。田中秀人とのコンビもよくなってきて、頼もしい存在になってきているのは非常に嬉しい。ちょっぴりどこぞのチームが目をつけ始めないか不安ではあるのだが（笑）。

（岐阜の誇り）

●シーズン前半の締めくくりはニューカマーの町田戦。今季の新しいチャントをいつもに増して必死に歌ったけれども、わずか勝ち点1の僅差しかなく、万が一負ければ順位が入れ替わって再び最下位という状況は「負けられない戦い」ではなく「勝たなければならない戦い」。もちろん、それは相手の町田も同様のはずで駆けつけたサポの数や声援はかなりの迫力を感じた。この試合に対する思いは双方の選手たちにもあるワケで、それが開始早々の染矢のボレーや町田のカウンターにも現れていたように思う。とりわけ、この試合でというかここ最近ずっとキレキレなのが染矢。開幕の頃の何かぼんやりとした単純一辺倒の動きが、いつのまにか文字通り縦横無尽に動き出して、相手DFを翻弄するようになり、彼を起点とした決定機も多くなってきた。となれば、当然彼のゴールを期待するのだが、前半にあった3度のチャンスもモノにできず。それでも、決勝点の場面も実は彼が起点になっていて、ゴール前のイーブンボールを拾って平に渡し、それが明弘のアシストになり洗一のゴールを呼び込んだことになる。これからも、この好調さを維持していけば得点を決めるのも遠くないだろうし、チーム全体の得点力向上のためにもこのまま行ってくれることを期待している。

それから、この決勝点は洗一も言っていたように、明弘のクロスで決まりだったね。ちょうど、バクスタの自分の席から間近に見ていたけれども、グラウンダーのクロスを放った時点で予感できた。そんな感じの鮮やかなクロス。これまでは、どちらかという一拍遅いというか、ワンテンポ持ち過ぎな嫌いがあるように思っていたが、どんどん積極的にクロスを入れていってほしい。得点こそ1点のみだったが、主導権を握ったままの試合だったと言えるんじゃないかな？もちろん、何度かピンチも迎えたけれども、時久

を中心とした最終ラインもよく体を張ってくれたと思う。ただ、よくわからなかったのが町田の攻撃。ビハインドを背負っているのに、どういう狙いなんだか、ずっと最終ラインでボールを回してくれていた。それも、攻めの形を作り上げるためのパス回しでもなく、時間を浪費してくれてるような意図の良くわからないパス交換。それに助けられたともいえるし、だからこそこの順位にいて、当然この相手には勝たなきゃいけないな、とか、そういうことを考える余裕？がボクにも生まれるぐらいだった。う～ん、アルディレスってこういうサッカーをする監督でしたっけ？これは余談だけれども、この試合に関する町田サポのブログや某掲示板への書き込みで話題になっていたのが試合前のセンターサークル応援団のこと。話の途中でチャントをかぶせたことに対しかなり厳しい意見が出ていたのだが、ボクは擁護派より否定派が多かったことにかえってビックリしている。この日の応援団の某青年はバクスタのタスキの中でも特にアツい応援をしているから、町田サポにチャントをかぶせられて逆に燃えたんじゃないのかな（笑）。あるいは、なんとも思っていないかもしれない。

もともと、試合前にこういうイベントというか、セレモニーを定期的実施しているクラブはJ1でもJ2でも多くない（ような気がする）。選手紹介が終わり、ピッチ内練習も終わった後はすでに「戦う」雰囲気も出来上がってたりするので、今さらほのぼのとした催し物もないだろうと思うコアなウルトラサポがいてもおかしくない。ましてや、この日の応援団のようにチャントを歌い出し、それに合わせてスタンドも合唱されたら、そのままにしておけないという気持ちも理解できる。ただでさえ数的に劣勢なのに、試合前にホームのサポがノっちゃったら雰囲気ますます悪くなっちゃう。「負けてたまるか！」という気合でチャントをかぶせたとしてもしかたないなあと思ってみたり。こういう考え方をする方が少数派で岐阜サポの中にもチャントをかぶせられたことを快く思っていない方が多いのかもしれない。

もちろん、応援団が子供さんだったり女性だったりしたら、ボクも「空気嫁」とか思っただろうが、この試合の応援団の青年は知ってる人だけにかえって楽しんだじゃないか、と。違っていたらゴメンナサイ。なんというか、実に良心的な町田サポに比べ、自分はほんでもなくスレちゃったなあ～（汗）と感じた試合後でした。（ぐん、）

●祝（？）・ホーム2勝目&降格圏脱出（苦笑）！いやー、ホントに長かった。北九州戦での勝利以来、2ヶ月ぶりのホームでの勝利は喜びもひとしおでした。もっとも、今季はまだ4勝しかしていないのだから、「アウェイでは勝っている」という訳でもないのだけど…（苦笑）。

この町田戦、「ホームで勝利を」ってこともあったんだけど、順位的にも（岐阜は20位だったとはいえ）勝ち点14で並ぶ町田を倒して突き放し、降格圏を脱出するためには、どうしても勝たなくてはいけない試合だった。それは選手たちも強く意識していたのだろう、試合開始序盤から積極的に仕掛け、前半3分には#1染矢がシュートを撃ち、主導権を掴んだし、直後に相手に決定機を作られたけど、その後は、前半はほとんど相手にチャンスを作らせなかったんじゃないかな？そして後半9分、町田ゴール前の混戦から再び右に開いて、#2明弘のグラウンダーのクロスで#18光一が押し込み先制！その後は（ちょっと危ない場面もあったけど）キチンと町田の攻撃を封じ込めて勝利！！いやー、やっぱホーム長良川での万歳四唱は気持ちいい！（笑）

ヒーローインタビューでは、貴重な決勝点を挙げた洗一と一緒に染矢も呼ばれたが、みんな納得していたんじゃない

かな。特に前半は（失礼ながら）「どうしちゃったの？」と思ったぐらいに積極的に、いいシュートを撃ってくれた。あれのどれか1本でも入ってたらなあ…とは思っただけど、ここ数試合、ソメは動きが良くなってきた気がする。あと少しでゴールも見られるかもしれないなあ…（ワクワク）。それに、#2町田も良かったと思う。町田のFW平本をしっかり封じ込めていた。ちょっと危ないミスもあったけど（苦笑）、それでも開幕から比べると安定していた。…というか、どの選手も成長しているのがはっきりと感じられた。ようやく、行徳監督のやりたいサッカーが定着してきたのか、あるいはハットさんの「戦う経験値」が周りの選手に伝わってきているのか。ともあれ、チームの状況が良くなっていることを、そして後半戦での巻き返しを期待させてくれる試合だった。

それにしても、町田は…なんだか不思議な感覚だった。向こうの【4-1-4-1】システムに対して、うちの【4-4-2】が効果的だったからかもしれないし、そういうパスサッカーを目指しているのかもしれないけれど、ウチよりも更に、DFラインの位置でボールを回して組み立て、中盤で形が作れないと、縦に放り込むサッカー（それが失敗するんだけど）だった。要は、僕には「（今の）岐阜よりは精度が悪いけれども、岐阜と似たようなサッカー」をしているような感覚を持った。序盤のウチが、こんな感じだったのかもしれない。つまり、パス等の精度が悪くなれば、また（10試合未勝利だったと思うけれど）町田と同じような状況に陥ってしまうんじゃないかという危機感と、逆に精度を上げていくことで、ウチも益々良くなっていく可能性があるのだなという思いを抱いた。チームは（する訳ないと信じているけど）油断することなく、さらなる向上を目指して欲しい。特に得点力だよね…やっぱホームでゴールが決まると盛り上がるし、2点差以上つけて、もう少し落ち着いて見られる試合をやって欲しい…なんて言うのは贅沢かなあ…（苦笑）。（ささたく）

●『特殊相対性理論』。アインシュタイン博士が100年以上も前に発表した理論について説明出来る知識なんて、このぼくにあるわけがない。のだけど、この日のFC岐阜×町田ゼルビアの試合を観ていて考えついたのはそこだった。「動いているものの時間は、止まっているものの時間より遅く流れる」。もしかしたら、長良川競技場のピッチの上だけ光速に近い速さで動いているから、それを“外側”から観ているスタンドのぼくたちにはピッチの上の時間が遅く感じるんじゃないか。そう考えちゃうくらい、町田のサッカーが「遅かった」。

別に、サッカーという競技は「速けりゃいいってモンだ！」というものではないので、“遅いサッカー”が町田のスタイルならもちろん構わない。けれど、それはこれまでのぼくが観てきたJ2のサッカーからは明らかに“異質”だった。ここ最近キレキレの染矢のいいミドル2発で開始早々はリズムよく試合に入ったように感じたFC岐阜だけど、やがて町田のその異質なサッカーに巻き込まれてしまったようにペースダウンさせられてしまった、そんな前半だった。FC岐阜の選手たちも、こんなサッカーに接したことがなくて戸惑っていたのかもしれない。象徴的だったのは、前半の40分くらいにバックスタンドの岐阜サポーターから「苛立ち」に近い声が聞こえてきたこと。試合終了5分前でこれならわかるけど、まだ前半だったのだ。

これは、町田はきっと「わざとこうしている」に違いない。後半になって、町田はどこかでギョッ！とペースを上げて先制点を挙げ、再びスローペースに戻してFC岐阜が戸惑っている間に逃げ切ってしまう、そういう作戦だな！恐るべし、町田のアルディレス監督っ！なんて思ってもい

ただのだけど、実際のところはどうだったのだろう。後半の早いうちに明弘の素晴らしいグラウンダーのクロスをファーでコーイチがピタリで合わせて先制点。これで町田はネジ巻いて反撃に出るしかなく、関東リーグ時代からの生え抜きの柳崎を投入してスピードアップして来たけれど、同じく関東リーグ時代からの生え抜きであるエース・勝又の不在は大きかった。試合はそのままで終了、4月以来の歓喜が長良川に訪れた。

FC岐阜からしたら、久しぶりに『勝ちに不思議の勝ちなし』という感じの勝利。間違いなく、対戦相手より上回っていた。でも、それだったらもう1点獲れててもいいような気がする（苦笑）。

守備陣のガンバリで得ている勝ち点、でも実は「5試合で4点しか獲れていない」という点はスルーしちゃいけないと思う。守備陣に警告の累積は着実に起きている。今後は攻撃陣の目覚めに期待したいところだ。（吉田铸造）

【ユース】G2リーグ戦

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下岐阜ユース）は、6月23日と30日にG2リーグの試合が有りました。23日の試合は大垣西高校との全勝対決で有り、観戦に行ってきました。試合は前半は岐阜ユース、後半は大垣西が主導権を握り激しい展開の試合でしたが、後半の得点機を物にして得た1点を岐阜ユースが守りきり1対0で見事勝利しました（パチパチパチ）。

30日の試合は土岐商業高校との対戦でした。こちらは観戦に行きませんでした。悪天候の中で行われた試合は1対1の引分けだったとの事でした。

これで第6節終了時点での成績は5勝1分0敗のリーグ1位です。この日、2位の大垣西も引き分けたため勝ち点差3はそのままであり、G1昇格に向けて大きく前進したと思われます。そして7月7日には斐太高校との対戦が有った筈ですが、結果はどうだったのでしょうか？吉報が届いている事を祈っています。

頑張れよ！応援しているからな！！FORZA！FC岐阜ユース！！（シュナ）

FC岐阜サポによる ゲリラ的Ustream配信番組

今シーズンからのサポーター発信企画として、基本的にホーム戦の前日に、インターネットの動画共有サービス「Ustream」を利用した手作り感満載の番組を下記アドレスで放送しています。サポーターの『生の声』をお愉しみください。

<http://www.ustream.tv/channel/sstak12-fcgifu>

次回は7/14（土）21:00開始の予定です。

【第2節】甲府0-0岐阜

●いよいよ今季も折り返し点。後半戦最初の試合はアウェイ甲府戦。2年ぶりの小瀬は中銀スタジアムと名前を変えていたけど、スタンドの角度は変わりがなくわりと見やすいスタジアムのはずなんだが、それでもトラックのおかげで反対側のゴール付近はやはり見づらい。

この試合の後半はずいぶん攻められてはいたけれど、決定的な場面は1つか2つ。そんなふうと思っていたのだけれど、録画を見ると何度となくピンチがあって「いったい、どこを見てるんだ？」と自己反省しきり。逆に、前半に訪れたウチのチャンスも、右C Kからの誰か（笑）のヘッドを甲府のG K荻がギリギリ防いだ場面くらいの気持ちでいたら、実際はもっとチャンスを作っていたり……。試合のスタッツを見て、前半のシュート数が甲府の2に対して岐阜が6という事実で改めて驚いたワケで。まあ、試合終了時点では双方とも8本ずつとなって、記録上からも後半は甲府に主導権を握られていたということになる。

現地にいながらこんなあやふやな記憶なのが赤面モノだけれど、それは「距離が遠かったから」という言い訳をしつつ、それでもその場でのイメージは正直「勝てる！」と思っていた。だからこそ、引き分けでの勝ち点1は残念だし、今季リーグ戦での甲府との対戦が終了し、結局今季も甲府に勝つことができなかったのは悔しいし満足はしていないけれども、3戦連続無失点と勝ち点1という最低限の結果を残してくれたことには納得している。ことに、甲府のエースFWダヴィを完封した関田の働きは誰もが認めるだろうし、彼の自信にもなっただろう。長良川での借りを返したと言ってもいいかな。もちろん、前回の対戦と違い、なぜか高崎がスタメンから外れ、ダヴィの1トップだったことでターゲットが絞れたことがウチにとっては幸運だったとも言える。この時期に新しい布陣を試行してくれた甲府の城福監督に感謝してもいいのかもしれない（笑）。

反面、ウチが今季前半を苦しみながら継続してきたことがようやく形となり、この試合も含めた3戦連続完封とか6月以降の6試合で2勝3分1敗で勝ち点9、今季の勝ち点の半分を積み上げるという結果につながっているワケで、これからの巻き返しにワクワク感が隠せなくなっている。とはいえ、勝つ時は全部1-0というのもいかなものか。遠慮せずにもう少し点を取ってもいいんだよと伝えたいが、実はサッカーは1-0で勝つのがイチバンおもしろい、シビれるとも思っていて、岐阜の選手もそれがわかっていて最高のエンターテインメントを提供してくれているんだと思わないこともない。

ただ、これからも勝ち点を積み上げるためには攻撃の形も守備同様に築き上げておくに越したことはない。そういう意味では、この試合の前半、右C Kにニアで合わせた野垣内のヘッドはかなりの武器になるんじゃないか？もともと、自分でもアピールしているとおり、空中戦には自信を持っていて、実際何度もその強さを見せてくれている。得点力が控えめで決定力に欠ける現状でセットプレーは絶好のチャンスであり、長身の洗一や関田にマークが集まる中でしっかり決めてくれれば言うことはない。昨季のケーズデンキでのサヨナラ・ゴールみたいなヤツを心待ちにしている。いや、もっと早い時間に決めてくれてもかまいませんが……。 （ぐん、）

●実は甲府とは相性が良い……って言い方をしているのかな？確かに対戦成績だけ見れば5敗4分なんだけど、ことアウェイの小瀬（今は山梨中銀スタジアム）での成績だと、1敗4分。岐阜は「勝っていない」けれど「あまり負けていない」ことも事実。甲府の実力からすると、それは相性が良いって言い方もできるのかな、と（苦笑）。ウチの調子も上がってきたことだし、雨でグラウンドコンディションが

悪くなればウチの勝機も増えるし、ここで甲府に勝って今季初の連勝を！……と思っていた。

さて、スタメン発表では（最近は慣れたけど）再びの「行徳マジック」というか「行徳サプライズ」というか（苦笑）、#23橋本をトップ下に置いての【4-2-3-1】システムで甲府に臨む。そして実際、これが機能していた。今までのブグルは、（どちらかというと）後ろの方でプレイするのを好む選手という印象が強かったのだけれど、この試合では前目でキチンと役割を果たしてくれていたように思う。髪をバッサリと切ったのも、強い決意の表れなのかもしれないよね……。そして、守備に関しては変わらず好調というか、集中して良く守れていた。特に#25関田は、この試合でも16得点で現在J2得点王のダヴィをしっかりと押さえ込んでいた。その証拠に、試合の途中からダヴィはイライラしてたし、試合終了後には（録画を見ると）ずっと文句を言っているように見える（苦笑）。後半は守備陣も疲れから崩されそうになるシーンも何度かあったけれど、最後のところで守れていて、今節もまた無失点。これで3試合連続無失点とは、正直驚いた。

一方の攻撃は……うん、甲府が相手だから、守備に集中していて手が（足が？）回らなかったのかな……あと一歩、あとワンテンポが遅くて、せっかく良い形になりかけているのを無駄にしたり、ボールを奪われて逆に危ない場面を迎えてしまった時もあったと思うので、その点は改善が必要だと思う。

試合終了の笛を聞いた時は、今回もまたアウェイ甲府戦で「勝たなかったけど負けもしなかった」ことに、僕は少しモヤモヤしたんだけど、甲府サポが（甲府の選手に対して）大ブーイングしたことで、そのモヤモヤは晴れてしまった（笑）。まあ、甲府サポにしてみれば「後半戦最初の試合は岐阜が相手なんだから、しっかりと勝ちきって、J1昇格に向けて弾みをつけたい」と思っていたのに、引き分けとは……って気持ちなんでしょうね（苦笑）。少し居残りもされたようで……。周りの岐阜サポも甲府サポのブーイングに大喜び（？）で、同じ引き分け勝ち点1でも、サポは実に対照的な受け止め方だった。

それにしても、甲府記者のレポートだと、行徳監督は「6月から守備練習をはじめた」……ってマジかっ！？（大苦笑）いやたぶん、今年は守備の立て直しが最初の目標だったハズだから、僕は行徳監督がとぼけてみせただけだと思うんだけど……冷やし中華じゃないんだから（笑）。2009年に、（昨年まで在籍していた）嶋田正吾が初得点を挙げた後に「今週からシュート練習ははじめました」って言ったので、（真偽はともかく）岐阜サポはズッコけた……という記憶と見事に重なる（苦笑）。これで行徳監督が「（7月から）シュート練習ははじめました」って言って、得点がどんどん決まってくれば、嬉しいかも……。 （笑）。

ともあれ、強い相手とでも粘り強く戦って、勝ち点を獲れるようになってきたのは素晴らしい。油断せずに一戦一戦を戦って、勝ち点を（できたら勝ち点3を）積み上げていって欲しい。（ささたく）